

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 斐太高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和8年10月6日(火) 14:00～16:00
- 3 開催場所 斐太高等学校 有斐会館 会議室
- 4 参加者

会 長	池畑 尚哉	前育友会長
委 員	鎌野 寛	育友会長
	坂井 歩	高山自動車短期大学学長
	白川 博子	有斐会副会長
	橋爪 陽子	育友会役員
	松井 ゆう子	高山市役所農政部長
	丸山 純平	高山市議会議員
	山下 八恵子	前育友会役員
欠 席	清水 大地	株式会社清水弥生堂代表取締役
学 校 側	中村 浩一	校長
	大滝 陽子	事務部長
	下嶋 和長	教頭
	邑上 浩司	教務主任
	日比野 恭一	進路指導主事
	中村 香月	生徒指導主事
	宗形 翼	特別活動部長
	鈴木 泰輔	探究活動部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 若手職員との懇談

若手職員から見る本校の生徒の様子及び本校に対する地域からの要望について説明

意見1：斐太高校は白線流しで有名であるが、その他にも印象に残るイメージを作り出してほしい。

意見2：若手職員の話を聞いて子どもを安心して預けられる学校であることを再認識した。

意見3：若手職員から見て、本校の課題は何か。

⇒ 生徒は一生懸命であるが、自分の殻を破って外に飛び出していくような欲がほしい。力強い生徒を育てたいと考えている。

⇒ 生徒は短い動画や短い言葉、流行りのもの、関心のあるものには高い興味を示すが、幅広く情報を汲み取る力を付けてほしい。長い文章を読んだり、流れてくる情報から必要になるかもしれない情報を拾ったりする力を付けさせたい。

⇒ 本校の生徒は全国と比較して、勉強においても部活においても生徒自身の競争意識が低いと感じるときがある。目標に向かって全力で努力できる生徒の育成に努めたい。

(2) 前期の取組及び後期の取組について

以下の資料をもとに説明

〔資料1〕 外部評価アンケート結果（生徒、保護者等）及び中学校教員アンケート結果

〔資料2〕 令和8年度 各分掌の指導の重点と自己評価【前期終了時】

①生徒支援について

意見1：いじめ問題は一般的に表面化しにくいと聞くと、そんな中でも積極的に認知し、丁寧に取り組んでいることは大変評価できる。

⇒ 学校では組織的にいじめ認知に取り組んでおり、細かなこともすぐに情報が共有されるように取り組んでいる。日々迅速な対応を心掛けている。

②生成A I の活用について

意見2：A I を小論文等の添削指導に役立てていることはすばらしい活用だと思うが、これはA I の活用のほんの一部でしかない。学校は今後A I をどのように活用していくのか。何か展望はあるか。

⇒ 探究学習においては、生徒はすでに生成A I を利用して活動している。企業の中には、「問い」を立てながら生徒の探究学習のテーマを深掘りしていく生成A I を開発しているところもあり、今後活用できることを期待したい。

意見3：生成A I は日々目まぐるしく進化している。地方の高校生でもA I を使えば、例えばアプリを開発するなど生徒の活動の可能性を広げられる。ぜひ積極的な活用をお願いしたい。

③専門家、大学、一派企業との連携について

意見4：大学教授や一般企業等の専門家などに来てもらい、専門的な話を聞く機会は生徒が進路を考えるうえで良い機会となる。そのような連携はあるか。

⇒ 現在、探究学習や進路学習において、実際に大学教授、一般企業や行政の方に来校してもらい授業を行っている。将来的には教育課程や学校設定科目の見直しも含め、それぞれの強みを生かした連携を考える必要がある。

④広報について

説 明：生徒対象の学校評価アンケートにおいて「HPやメール等を活用して、適切な情報発信や方法活動を積極的に行っているか」の問いに対し、肯定意見が昨年度より大幅に増加した。生徒主体のインスタグラムの効果もその一因だと考えている。

意見5：生徒主体で発信しているインスタグラムがあることを知らなかったもので、これから見てみたい。楽しみである。

6 会議のまとめ

- ・ 第2回学校運営協議会では、若手教員が感じている生徒の様子や本校に対する地域の期待について委員と共有し、本校の課題について意見交換を行った。また、前期の取組や学校評価アンケートの結果等について学校が説明し、委員が今後の課題や提案を出しあい解決に向けた方策を探った。各委員からの意見を反映し、今後の学校運営を進めていくことを確認した。